

西播の蝶分布資料 (6)

岩村 巖

赤穂市の蝶類

Some note on the Butterfly Fauna of South west-Hyōgo-pref (6)
by Iwao Iwamura
(The Butterfly Fauna of Ako-shi)

I). はじめに

昭和37年兵庫県立赤穂高等学校に勤務するようになって以来、赤穂市及びその周辺の蝶のファウナの解明調査を試みて来たのであるが、その断片的な事項に関してはこれまでにその都度報告しておいた。

- 1. 西播の蝶分布資料(1): 兵庫生物, Vol. (4) No. 2
- 2. 西播の蝶分布資料(2): 兵庫生物, Vol. (4) No. 3~4
- 3. 西播の蝶分布資料(3): 兵庫生物, Vol. (4) No. 5
- 4. 西播の蝶分布資料(4): 自刊 (1965. 11. 5)

さらに、1967年赤穂市、相生市、赤穂郡の2市1郡の蝶相については、同高校の創立四十周年を記念して出版された研究紀要の紙面にまとめて報告しておいたが(西播の蝶分布資料(5)、赤相の蝶類)、その後、開発等による環境の変化、新産地の発見、気候等の変化にともなう新しい土着種の問題等、興味ある新しい事実もいくらか出現したので、これらの新知見も加えて、再度、範囲を赤穂市に限定してそのファウナをまとめてみたいと思う。

赤穂市は県の西南端に位置し、北は赤穂郡、東は相生市、さらに西は直接岡山県の日生町及び備前市と境いを接し、南に瀬戸内海を望む総面積127.02km²、人口約51,000人、世帯数14,100の地方都市である。市の東部を北より南にむかって県下有数の清流千種川が流れ、その下流に発達したデルタ地帯に市の中心街が発達している。かつては発達した遠浅の海を利用して入浜式の塩田をもち、全国有数の塩の産地として知られていた当地方も、その方式がイオン交換式に変化するにつれて広大な塩田は不必要となり、そのあと地に近年大工場の進出がみられるようになり、環境条件も次第に変化しつつある。古くから千種川流域や北部の国道2号線にそった平坦部及び市西部の大津川流域を中心にして水田が開かれているが、市全体としてはその面積は比較的少なく、全面積のわずか11%にすぎない (Table. I 参照)。市の北部、西部を中心としてその大部分が標高400 m以下の低山地になっている。

気候は温暖で年平均気温が16.4℃ (1971~1978年の8年間の平均値) もあり、姫路(15.4℃)、明石(15.3℃) 等と比較してもやや気温は高い。又、1月、2月の平

均気温も5.4℃、5.8℃と高く(1971~1978年の8年間の平均値)、年間の最低気温も過去8年間において一度も-3℃を下まわったことがない。年間降水量は1180 mmと少なく (Table. II 参照)、典型的な瀬戸内海性気候の特性を示しており、比較的めぐまれた気象条件を備えた地方である。近年この気候を利用して柑橘類の栽培も加里屋、塩屋、尾崎、木生谷等の南向きの山麓斜面を利用しておこなわれるようになっており、その栽培面積も56haと次第に増加しつつある。

Table. I 赤穂市の土地利用状況

農 用 地 等				山 林 原 野				その他	
田	畑	樹園地	その他	人 工 林		天 然 林		その他	2324
				針葉樹	広葉樹	針葉樹	広葉樹		
1388	161	59	121	271	102	6932	1069	278	
1 7 2 9				3 7 3		8 0 0 1			
				8 6 5 2					
合 計				1 2 , 7 0 2 ha					

Fig. I
赤穂市概念図

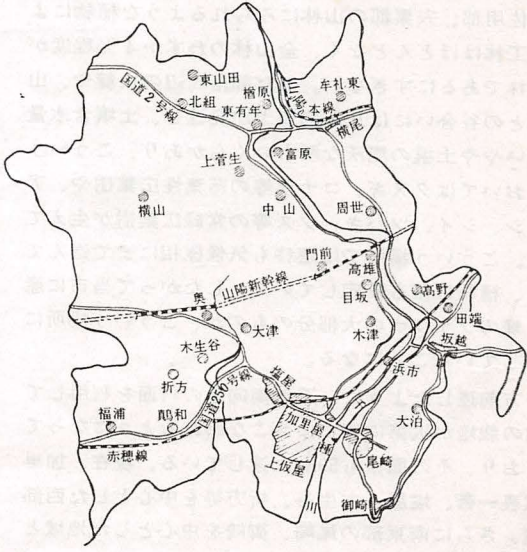
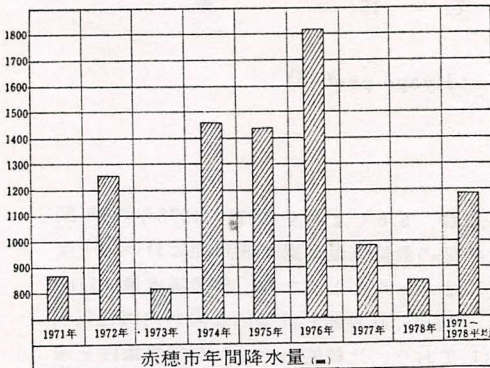


Table. II 赤穂市年間降水量



II) 植生について

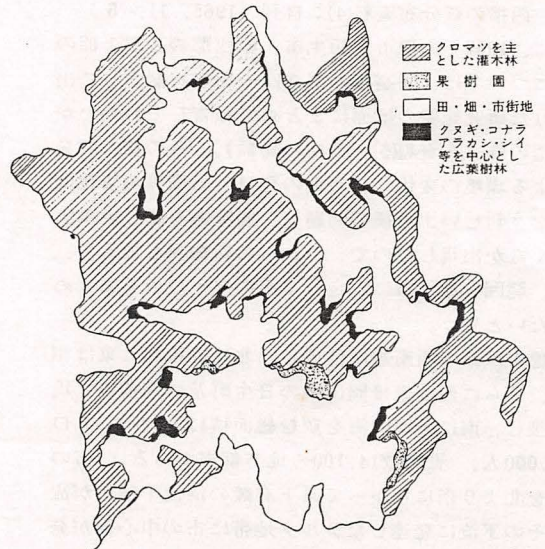
すでに述べたように市の面積127.02km²の内、その68%強にあたる86.52km²が山林である (Table. I 参照)。しかも、当地方のあちこちで採石がおこなわれていることからわかるように、山地はその地表近くまで岩盤が迫っており、表層土は極めて貧弱で地味も痩せている。特に山の急斜面においては、雨水によって表面が洗い流されることも一つの大きな原因となってA層の発達には極めて悪く、場所によってはA₁、A₂層の消失している所も多い。このような土壌条件が原因となってこれら山地の植生は極めて貧弱であり、矮生のクロマツが中心となった、ツツジ類、ハギ類、ヤシヤブシ等をまじえた樹高の低い灌木林となっている。植物群落の遷移は、いわゆる土地極相の段階でその遷移が停止しているのが現状である。このような状況であるから、佐用郡、宍粟郡の山林にみられるような植物による人工林はほとんどなく、全山林のわずか4%程度が人工林であるにすぎない。ただ部落周辺の山麓や、山と山との谷合いには比較的表土が発達し、土壌含水量も多いやや土壌の肥沃な所もいくらかあり、こういう所においてはクヌギ、コナラ等の落葉性広葉樹や、アラカシ、シイ、ツバキ、クス等の常緑広葉樹が生えている。こういう場所では遷移も気候極相にまで進んでおり、植物群落も安定していて、したがって当市に産する蝶のファウナの大部分のものが、こういう場所に生息していることになる。

一方前述したように、近年南向きの斜面を利用して果樹の栽培が次第に盛んにおこなわれるようになって来ており、その面積も59haに達している。現在、加里屋駅裏一帯、塩屋、木生谷、折方等を中心とした西部山麓、さらに南東部の尾崎、御崎を中心とした地域とほぼ3箇所がその中心となっているが、市の政策ともあいまって将来さらに広がるものと思われる。これらの地域で栽培されている果樹の内の9割以上がミカン

であり、当然栽培地周辺には放置され消毒されないミカン類も相当数みられるので (栽培地においては年数回の薬剤散布がおこなわれる)、これら栽培性の柑橘類を食草とする *Papilio* 属の個体数は比較的多く、このことが当地方のファウナの大きな特性ともなっている。

コバノトネリコ、イボタ、エノキ、スイカズラ等のいわゆる蝶の食草となりうる樹木等は主として山麓の雑木林の中で発見されるが、場所によっては相当密度の高い所もある。又、赤穂城跡公園周辺にはクス、カワナギ等が多数植えられており、市内の旧家の屋根にはツメレンゲが群生している所もある。さらに海岸の塩田跡や河川敷にはミヤコグサの群生地もみつっている。

Fig. II 赤穂市の植生



III). 主な種類に関して

1) *Papilio memnon tunbergii* von Shibold (ナガサキアゲハ)

県下各地の瀬戸内海沿岸において毎年少数ではあるが採集されつづけて来た本種も、土着しているかどうかという点になると淡路島を除いてはこれまでその土着が疑問視されて来た種類である。これまでの成虫の採集例としては、宝塚市、芦屋市、西宮市、加古川市、姫路市等が報告されており、これらの内、加古川市のナツミカンからは自然状態において卵も採集されており、成虫にまで飼育されたという報告もある (山本広一・兵庫生物、Vol.5, No.2, 1966)。当赤穂市においても1961年に2例、1965年に1例、1974年に1例の採集及び目撃が報告されており、1961年の2例については以

前にも報告しておいた（岩村巖・中谷貴寿：兵庫生物
Vol. 5. No.5. 1968）。

- 1961. 7月下旬 1♀ 赤穂市尾崎（北条）
- 1961. 8月上旬 1♂ 赤穂市尾崎（花房）
- 1974. 9.11. 1♀ 赤穂市上飯屋大石神社
（鈴木）

1961年の採集者はいずれも当時の小学生であり、採集
個体は採集時の不手際で大破していたが鮮度は新鮮な
個体であった。標本はいずれも採集者により保管され
ていたが現在不明である。1974年に採集された♀につ
いては、生きたまま筆者の手元にとどけられたので採
卵を試み、13卵を得ることが出来たが、いずれも無精
卵であり、フ化には至らなかった。山本氏によれば、

- (1)赤穂市の冬期の気温が淡路島の産地の比較してや
や低いこと。
- (2)採集個体がいずれも8～9月にかけてのものであ
り、5～6月にかけての採集報告がないこと。

等の理由により、一時的な偶発の可能性が強いと結
論されており、事実そうであろうと筆者も考えていた。

ところが最近1977～1978年にかけて近くの揖保郡御
津町室津において相当数の個体が採集されるにいたり、
それとほぼ時を同じくして当赤穂市においても採集又
は目撃記録がめだって増加してくるようになり、しか
も早いもので5月下旬、おそいもので10月上旬と次第
に時期的な幅も広がって来ており、当地方においても
土着したのではないかという希望がもたれるようにな
って来た。

- 1977.7.12. 1♂ 赤穂市加里屋ミカン山(岩村)
- 1977.7.22. 1♂ 赤穂市加里屋ミカン山(岩村)
- 1977.9.31. 1♂ 目撃赤穂市加里屋ミカン山(岩村)
- 1977.8.? 1♂ 目撃赤穂市加里屋ミカン山(松村)
- 1978.5.30. 1♂ 目撃赤穂市加里屋ミカン山(岩村)
- 1978.6.18. 1♂ 赤穂市上飯屋城内 (岩村)
- 1978.8.16. 1♂ 赤穂市加里屋駅裏 (岩村)
- 1978.9.16. 1♀ 目撃赤穂市加里屋駅裏 (岩村)
- 1978.10.6. 1♀ 目撃赤穂市加里屋駅裏 (山根)

1971～1978年の8年間における当地方の年平均気温
は1974年をのぞいてほぼ15℃～17℃の間にあり、年と
ともに次第に上昇する傾向を示している。特に1977～
1978年にかけては16℃台を示し、1971年72年等にくら
べると約1℃近い上昇がみられる。又、前にものべた
ように8年間の1月及び2月の平均気温も5.4℃、5.8
℃と比較的高く、年間に記録した最低気温も一番低い
年で-3℃高い年は+2.4℃もあり、どんなに気温が低
下しても-3℃を下まわったことがここ8年間には測定
されていない。1960年代土着していることが確認され

ていた洲本市の当時における冬期の最低気温が-3℃
前後まで下がっていることも考え合わせてみた場合、
当地方における土着の可能性もここ最近の気温の状態
からみて十分に考えられるようになって来たわけで、
今後、越冬中のサナギの発見と、自然状態での野外で
の越冬が可能かどうかの確認が望まれるところである。

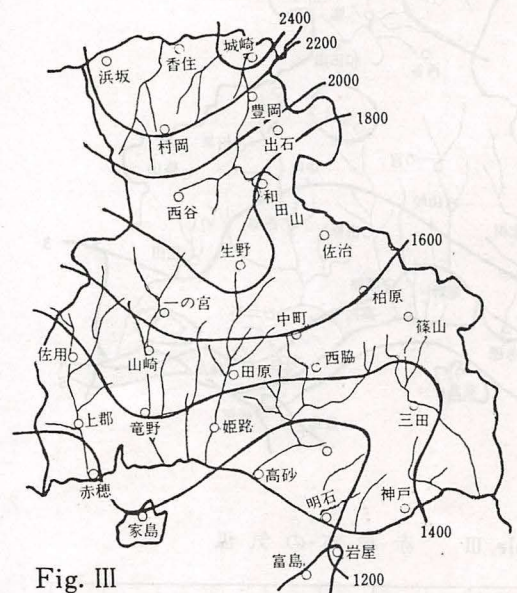


Fig. III
兵庫県累年等降水量線図（全年）
（1941～1970）

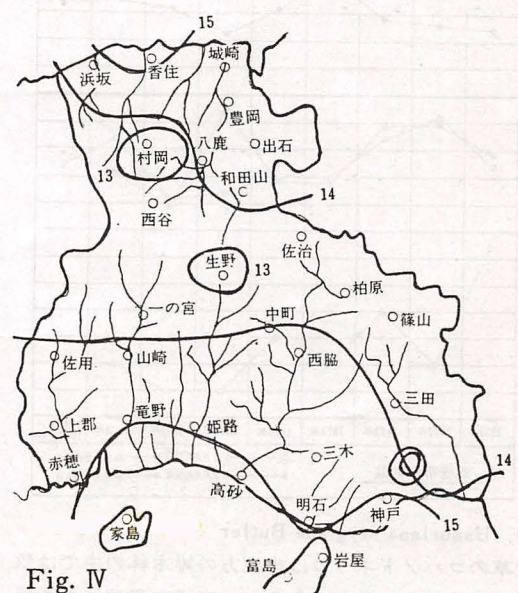


Fig. IV
兵庫県累年平均等温線図（全年）
（1941～1970）

Fig. V 1月等温線図 (1941~1970)

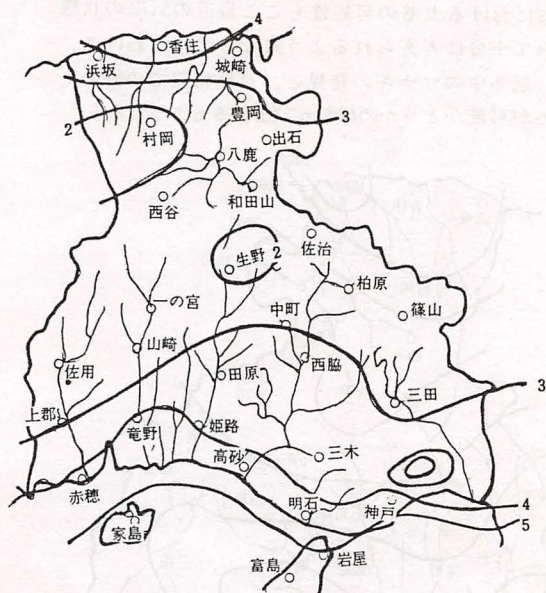
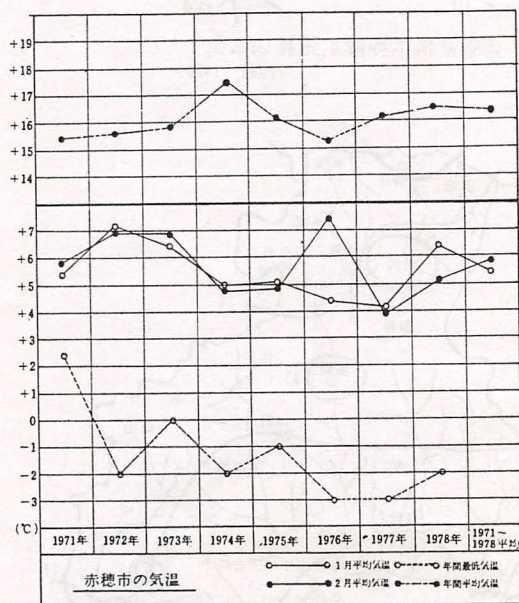


Table. III 赤穂市の気温

2). *Ussuriana stygiana* Butler (ウラキシジミ)

食草のコバノトネリコは当地方の雑木林の中では致る所で見うけることができるが、本種の産地はやや限定されており、どこでも見られるというわけではない。現在までの調査において判明している主な産地は檜原、牟礼、横尾、周世、富原、田端、春日、小山、

尾崎等の千種川流域に点在する部落周辺と、西部の折方、大津、奥、真木等の大津川流域の山麓であり、やや奥に入った山地帯には食草の関係もあって、横山以外今の所みつかっていない。各地における成虫の採集記録の中で、比較的新しい代表的なものをあげると次のようなものがある。

○1972. 6. 25.	1 ♂	尾崎	(松村)
○1973. 6. 13.	2 ♀	小山	(藤原)
○1974. 6. 14.	4 ♀	春日	(岩村)
○1974. 6. 24.	3 ♂ 3 ♀	富原	(岩村)
○1975. 7. 2.	3 ♀	横山	(岩村)
○1976. 6. 13.	2 ♂	檜原	(岩村)
○1977. 6. 19.	1 ♂ 1 ♀	大津	(岩村)
○1977. 6. 19.	1 ♂ 1 ♀	真木	(岩村)

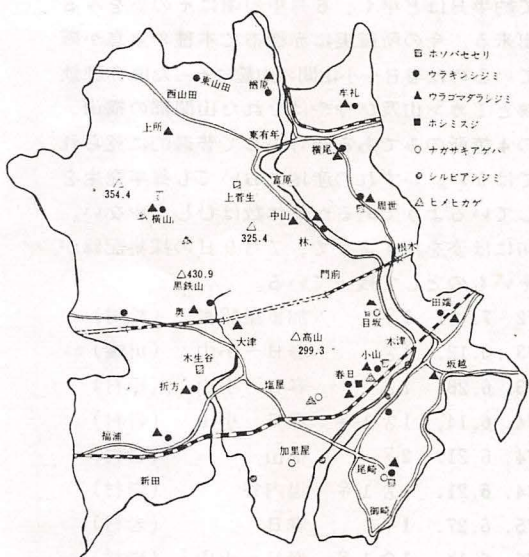
成虫の姿は6月上旬から見られ(最も早いもので6月2日、1 ♂・春日・松村の記録がある)、中旬が最盛期である。遅いものは7月上旬まで見られるが(1975. 7. 2、3 ♀、横山、岩村)、6月下旬をすぎると大破した個体が多くなる。最近当地方においても成虫の調査のみならず、卵、幼虫等の採集も盛んにおこなわれるようになって来たこともあって、急速に分布の状況、個体数の多少、周年経過等本種の当地方における生態が判明するようになって来た。田端、折方、奥等の産地は卵幼虫調査によって発見されたものである。

○1976. 12. 25.	32卵	春日	(岩村)
○1977. 1. 7.	61卵	富原	(岩村)
○1978. 3. 2.	28卵	奥	(岩村)
○1978. 3. 2.	17卵	折方	(岩村)
○1977. 5. 1.	26幼虫	春日	(岩村)
○1977. 5. 1.	17幼虫	小山	(岩村)
○1978. 5. 3.	6幼虫	田端	(岩村)

卵は食樹の基部のひだの内側やくぼみ等に10卵程度ずつまとめて生みつけられている場合が多いが、まれには、やや上部の枝のとれたあとに出来ているくぼみ等で発見されることもある。樹高の高い大きな食樹よりもむしろ比較的小さいものに生みつけられている場合が多いが、卵のフ化率はそれほど高いものではないようで、生みつけられている卵の数にくらべると幼虫の個体数はかなり少ない。冬期冷蔵庫で保管した本種の卵のフ化率は保管の悪さでもつづってか、50%前後である場合が多い。自然状態における卵のフ化は比較的早く3月の下旬には大部分のものがフ化してしまうようで、4月に調査してみるとほとんどぬけ殻ばかりの卵しか発見されない。5月に入って食樹の葉上で見られる幼虫は比較の見つけやすいが、終令になると日中、枝の分枝部分に静止していることが多く発見しに

くなる。又、令が進むにつれて寄生率も急速に高くなるようで、採集した幼虫43個体の内4割近い16個体ものものが寄生されていたという記録もある。

Fig. VI 赤穂産蝶類7種の分布概図

3). *Artopoetes pryeri* Murray (ウラゴマダラシジミ)

食樹となるイボタは当地方においては比較的普通にみられる種類であり、ほとんどの山麓や部落周辺でその姿を見出すことが出来る。他のゼフィルスにくらべてその発生時期は比較的早く、早い個体は5月下旬より出現することが確認されているが、やはり最も多いのは6月に入ってからである。当地方においては部落周辺の谷合いや、やや日かげになる雑木林においてみられるが、あまり乾燥したところには発見されない。又食樹が多い割には成虫の姿はそれほど多いものではない。現在までの所、天津、奥、折方、真木、尾崎、坂越、田端、目坂、小山、春日、横山、周世、横尾、上所、牟礼、中山等相当広い範囲にわたって採集された記録が残されているが、一箇所でも多産することはないようである。今後、卵・幼虫・サナギ等のさらにくわしい調査をおこなってゆくにつれて、さらに新産地のみつかの可能性は十分にある。記録の代表的なものには次のようなものがある。

- | | | | |
|---------------|----------|----|------|
| ○1965. 6. 15. | 1♂ | 横尾 | (岩村) |
| ○1968. 6. 21. | 1♀ | 尾崎 | (岩村) |
| ○1969. 6. 1. | 1♂ | 大津 | (粉引) |
| ○1974. 5. 23. | 1♂ 1♀ | 折方 | (岩村) |
| ○1975. 5. 28. | 1♂ | 目坂 | (岩村) |
| ○1975. 5. 28. | 1♂ | 中山 | (岩村) |
| ○1976. 5. 21. | 1♂ 1♀ | 横山 | (岩村) |
| ○1976. 5. 24. | 1♀ | 上所 | (岩村) |
| ○1976. 5. 24. | 1♂ | 牟礼 | (岩村) |
| ○1977. 5. 21. | 1♂ | 坂越 | (岩村) |
| ○1978. 5. 3. | 2終令幼虫 | 春日 | (岩村) |
| ○1978. 5. 8. | 1終令幼虫 3蛹 | 田端 | (岩村) |
| ○1978. 5. 3. | 2終令幼虫 | 周世 | (岩村) |

4). *Zizina otis emelina* de l' Orza. (シルビアシジミ)

現在までの所、市内で採集された記録の残っている地域は目坂、野中、尾崎大橋西岸の千種川の堤防と大津及び海岸近くの新港の計5箇所のみである。これらの内新港をのぞいては他のいずれの地区においてもその個体数は多くない。尾崎大橋及び野中の2箇所の産地は筆者が1963年に調査して確認したものであるが、一昨年の当地方をおそった大水害を契機に、千種川堤防の大規模な改修工事がおこなわれており、その環境が一変してしまい、現在生息しているかどうか確信がない。一方、これまで毎年7月～8月にかけて多数の個体が採集されて来た新港においても、急速な塩田跡への工場の進出により、埋め立て等による環境の破壊が著しく、今後生息しつづけるかという点になると大いに疑問がある。当地方での産地の代表的な記録をあげると次のようなものがある。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|------|------|
| ○1963. | 6.27. | 3♂2♀ | 尾崎大橋 | (岩村) |
| ○1963. | 9.7. | 2♂ | 野中 | (西垣) |
| ○1965. | 10.10. | 1♂ | 大津 | (岩村) |
| ○1969. | 9.13. | 1♂1♀ | 目坂 | (粉引) |
| ○1976. | 7.27. | 26♂12♀ | 新港 | (松村) |
| ○1976. | 9.14. | 12♂4♀ | 新港 | (松村) |
| ○1977. | 10.8. | 2♂1♀ | 新港 | (岩村) |

過去の採集記録をみるかぎりにおいては当地方では年5化の可能性が強く、第1化は4月下旬、2化が6月上旬、3化が7月下旬～8月上旬、4化が9月上中旬で、10月に入ってから第5化の発生がみられるようである。4月下旬にみられる第1化の個体数は、この時期の調査の不十分さでもつだって極めて採集記録が少なく、わずかに1♂1♀の2個体が確認されているにすぎない。しかし、7月下旬～8月上旬及び9月にみられる第3、4化と考えられる個体数は比較的多いようで、相当数の採集記録が報告されている。今の所、

市西部の大泊、八軒屋等の福浦地区及び北部の檜原、野田等の千種川流域の調査が十分おこなわれておらず、この地区においてはまだ環境も比較的自然的なままに残されているので、新産地の発見される可能性も十分にあるものと思われる。

5) *Paraneptis pryeri* Butler (ホシミスジ)

県下においては古くから須磨離宮道、西宮市甲山付近、宝塚ファミリーランド、印南郡城山、養父郡関宮町、同大屋町、さらに多井畑、大山寺、樋谷、須磨寺、有馬、御影等のあちこちで採集されている。又、西播においては古くから佐用郡下で産地が知られていたが、近年姫路市書写山、相生市大谷町、同矢野町小河等にも新しい産地が発見された。近県の大阪府、岡山県等の産地とも考えあわせると、瀬戸内沿岸に点々とその産地が点在していることがわかる。

現在までの所、当赤穂市における本種の産地は千種川流域西岸の春日～小山間の山麓一箇所のみであるが、過去10年間の当地での採集個体数が100頭近くにものはっている事実からもわかるように、その個体数は決して少なくない。最も早いもので5月26日、おそいものでは7月23日の採集データが残っており、これまでの採集記録を旬間別に区分してみると下表のようになる。

時 期	採集個体数	時 期	採集個体数
5月下旬	4	7月上旬	0
6月上旬	12	7月中旬	17
6月中旬	35	7月下旬	2
6月下旬	13	8月上旬	0

この表からもあきらかなように、6月中旬と7月中旬にそれぞれ個体数の多い時期があり、これら2つのピークの間の7月上旬には一時その姿を消す時期があることがよくわかる。このことは本種が当地方においては少なくとも年2化の発生をおこなっていることを示唆している。幼虫で越冬した個体が羽化する第1化は5月下旬より出現しはじめ、6月中旬が盛期となり、第2化は7月中旬にその姿をみせるようで、8月に入ればその姿を消すことがわかる。ただそれ以後の第3化の出現をみるかどうかという点になると十分な調査がおこなわれていないので何ともいえないが、筆者は書写山で9月にも新鮮な個体を採集した経験をもっており(1960.9.9.2♂1♀)、当地方においても9月に第3化の出現している可能性は十分に考えられる。

6). *Coenonymph oedippus annulifer* Butler

(ヒメヒカゲ)

段ヶ峰、峰山等の県中央部の中国山地の草原においては古くから多くの産地が知られている本種が赤穂市のような比較的海岸に近い標高の低い地域にその産地がみつかったことは大変興味のあることであろう。

当地方における本種の発生は、山間部の発生時期にくらべて約半月ほど早く、6月中旬頃にその姿をみることが出来る。今の所確実に赤穂市で本種の生息が確認されているのは春日～小山間の山麓にそった旧赤穂鉄道軌道跡とミカン山及びやはなれた山間部の横山、湯内谷の4箇所のみであるから決して普遍的に見られる種類ではない。いずれの産地においても毎年発生をくり返しているようであるが個体数はむしろ少ない。7月中旬には姿を消すようで、7月9日の採集記録が一番おそいものとして残っている。

- 1972. 7. 1. 1♀ 加里屋駅裏 (松村)
- 1973. 6.12. 1♂ 春日～小山 (川端)
- 1973. 6.28. 1♂ 春日～小山 (松村)
- 1974. 6.14. 1♂1♀ 春日～小山 (岩村)
- 1974. 6.21. 2♀ 横山 (岩村)
- 1974. 6.21. 1♂1♀ 湯内谷 (岩村)
- 1975. 6.27. 1♀ 春日 (岩村)
- 1976. 6.14. 1♂1♀ 春日～小山 (岩村)

7). *Isoteinon lamprospilus* C. et R. Felder

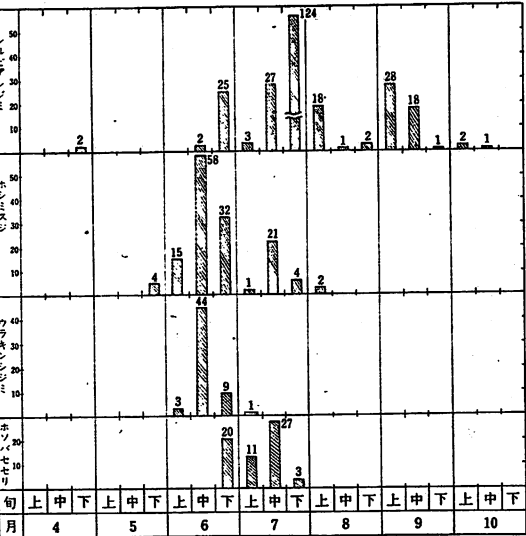
(ホソバセセリ)

当地方においては比較的まれな種類であり、その産地は局在している。現在までに判明している産地は木生谷、横山、上菅生、尾崎、春日、周世の6箇所であり、その個体数も多い方ではない。6月下旬頃より姿をあらわし、7月上旬中にピークをむかえ、下旬には少なくなる。今の所当地方においては8月に入って採集されたという記録はない。成虫はゆるやかに食草のまわりを飛躍し、あまり食草から離れることはないようである。

- 1972. 7. 2. 2♂♀ 小山 (松村)
- 1972. 7.15. 6♂5♀ 小山 (松村)
- 1973. 6.28. 1♂ 春日 (松村)
- 1973. 6.30. 1♂ 尾崎 (松村)
- 1973. 6.30. 18♂♀ 春日 (松村)
- 1973. 7.12. 13♂♀ 春日 (松村)
- 1973. 7.12. 2♂1♀ 周世 (岩井)
- 1973. 7.18. 1♂ 春日 (松村)
- 1974. 7.21. 2♀ 上菅生 (岩村)
- 1975. 6.27. 2♂2♀ 春日 (岩村)

- 1975. 7. 8. 3♂2♀ 横山 (岩村)
- 1975. 7. 6. 1♂2♀ 木生谷 (岩村)

Table. IV
赤穂産蝶類4種の旬間別採集個体数



Check-list of Butterflies from Ako-shi

- Hesperiidae (セセリチョウ科)
- 1) Erynnis montanus Bremer (ミヤマセセリ)
- 2) Chasmodon benjaminii japonica Murray (アオバセセリ)
- 3) Potanthus flavus Murray (キマダラセセリ)
- 4) Thymelicus sylvaticus Bremer (ヘリグロチャバネセセリ)
- 5) Ochlodes ochracea rikuchina Butler (ヒメキマダラセセリ)
- 6) Thoressa varia Murray (コチャバネセセリ)
- 7) Isoleucon lamprosilus C. et R. Felder (ホソバセセリ)
- 8) Polytemis pellucida Murray (オオチャバネセセリ)
- 9) Parnara guttata Bremer et Grey (イチモンジセセリ)
- 10) Pelopidas mathias oberthuri Evans (チャバネセセリ)
- Papilionidae (アゲハチョウ科)
- 1) Byasa alcinous Klug (ジャコウアゲハ)
- 2) Graphium sarpedon nipponum Fruhstorfer (アオスジアゲハ)
- 3) Papilio machaon hippocrates C. et R. Felder (キアゲハ)
- 4) Papilio xuthus Linne (アゲハチョウ)
- 5) Papilio protenor demetrius Cramer (クロアゲハ)

- 6) Papilio macilentus Janson (オナガアゲハ)
- 7) Papilio memnon thunbergii von Siebold (ナガサキアゲハ)
- 8) Papilio helenus nicconicolens Butler (モンキアゲハ)
- 9) Papilio bianor dehaanii C. et R. Felder (カラスアゲハ)

- Pieridae (シロチョウ科)
- 1) Pieris rapae crucivora Boisduval (モンシロチョウ)
- 2) Pieris melete Menetries (スジグロシロチョウ)
- 3) Anthocaris scolymus Butler (ツマキチョウ)
- 4) Gonepteryx mahaguru nipponica Verity (スジボノヤマキチョウ)
- 5) Eurema hecabe mandarina de l' Orza (キチョウ)
- 6) Eurema laeta bethesba Janson (ツマグロキチョウ)
- 7) Colias erate poliographus Motshulsky (モンキチョウ)

- Lycaenidae (シジミチョウ科)
- 1) Narathura japonica Murray (ムラサキシジミ)
- 2) Artopoes pryri Murray (ウラゴマダラシジミ)
- 3) Ussuriana stygiana Butler (ウラキシジミ)
- 4) Japonica lutea Hewitson (アカシジミ)
- 5) Japonica saepestriata Hewitson (ウラナミアカシジミ)
- 6) Antigius attilia Bremer (ミズイロオナガシジミ)
- 7) Favonius orientalis Murray (オオミドリシジミ)
- 8) Rapara arata Bremer (トラフシジミ)
- 9) Ahlbergia ferrea Butler (コツバメ)
- 10) Taraka hamada Druce (ゴイシシジミ)
- 11) Lycaena phlaeas daimio Seitz (ベニシジミ)
- 12) Niphanda fusca shijima Fruhstorfer (クロシジミ)
- 13) Lampides boeticus Linne (ウラナミシジミ)
- 14) Everes argiades hellotia Menetries (ツバメシジミ)
- 15) Tongeia fischeri Eversmann (クロツバメシジミ)
- 16) Zizeeria maha argia Menetries (ヤマトシジミ)
- 17) Zizina otis emelina de l' Orza (シルビアシジミ)
- 18) Celastrina argiolus ladonides de l' Orza (ルリシジミ)

- Nymphalidae (タテハチョウ科)
- 1) Argynnis anadyomene midas Butler (モモタテハ)
- 2) Argynnis paphia geisha Hemming (ミドリヒョウモン)
- 3) Damora sagana liane Fruhstorfer (メスグロヒョウモン)
- 4) Argynome laodice japonica Menetries (ウラギンシジモウモン)
- 5) Fabriciana adippe pallescens Butler (ウラギンヒョウモン)
- 6) Argyreus hyperbius Linne (ツマグロヒョウモン)
- 7) Ladoga camilla japonica Menetries (イチモンジチョウ)
- 8) Ladoga glorifica Fruhstorfer (アサマイチョウ)
- 9) Neptis aceris intermedia W.B. Pryer (コミスジ)
- 10) Paraneptis pryri Butler (ホシミスジ)
- 11) Araschnia burejana strigosa Butler (サカハチチョウ)
- 12) Vanessa cardui Linne (ヒメアカタテハ)
- 13) Vanessa indica Herbst (アカタテハ)
- 14) Kaniska canace no-japonicum von Siebold (ルリタテハ)

- 15) *Nymphalis xanthomelas japonica* Stichel(ヒオドシチョウ)
- 16) *Polygonia c-aureum* Linne (キタテハ)
- 17) *Apatura ilia substituta* Butler (コムラサキ)
- 18) *Hestina japonica* C. et R.Felder (コマダラチョウ)

Curetidae (ウラギンシジミ科)

- 1) *Curetis acuta paracuta* de Niceville (ウラギンシジミ)
- Danaidae* (マダラチョウ科)

- 1) *Caduga sita nipponica* Moore (アサギマダラ)
- Libytheidae* (テングチョウ科)

- 1) *Libythea celtis celtoides* Frunstorfer (テングチョウ)
- Satyridae* (ジャノメチョウ科)

- 1) *Ypthima argus* Butler (ヒメウラナミジャノメ)
- 2) *Ypthima motshulskyi* Bremer et Grey (ウラナミジャノメ)
- 3) *Minois dryas bipunctatus* Motschulsky (ジャノメチョウ)
- 4) *Mycalesis gotama fulginia* Fruhstorfer (ヒメジャノメ)
- 5) *Mycalesis francisca perdiccas* Hewitson (コジャノメ)
- 6) *Kirrodesa sicelis* Hewitson (ヒカゲチョウ)
- 7) *Neope goschkevitchii* Menetries (サトキマダラヒカゲ)
- 8) *Coenonympha oedippus annulifer* Butler (ヒメヒカゲ)

V) 結 び

これまでのべたことを要約すると、

1). 昭和37年以来17年間にわたって勤務地である赤穂市の蝶のファウナの解明にあたってきたが、現在までに9科73種の生息を確認した。これは県下において産するとされている種類の56%に相当する。

2). 当地方は全面積の約70%が400 m以下の山地であり、これらの地区は土質が貧弱で表土の発達が悪く、植生は極めて単調である。ただ部落周辺や谷合の水分の多い所ではクヌギ、コナラ、エノキ等の落葉性広葉樹やシイ、ツバキ、アラカシ等の常緑広葉樹の発達した所がある。

3). 上記73種の内の7種について、その分布状況、年間発生回数、産地における個体数の状態、今後の問題点等についてややくわしく記述してみた。

4). 現在までにわかっているわが国の蝶に関する知識をもって当地方をながめてみた場合、大体において可能性のある種類は発見されつくした感があり、今後新しい種類の発見される可能性は比較的少ないように思われる。

5). 相生市・赤穂郡等周辺の市町村のファウナから考えてみた場合、あと可能性のある種類としては次のようなものがあげられる。

イ). エゾスジグロシロチョウ

近縁のスジグロシロチョウとの同定の困難さも手伝って現在まで発見されていないものの一つであ

るが、積極的スジグロシロチョウを採集することにより必ずみつかるものと確信される種類である。

ロ). ミドリシジミ

木生谷、奥等の池の周辺にはハンノキの自生地がみつまっているが、今の所本種は発見されていない。相生市光明山等の産地と同じような環境の所もあみこちにあるので、今後の調査により必ず発見されるものと確信する。

ハ). キマダラルリツバメ

松林の多い当地方において本種の発見されていないのはやや不思議な感もするが、今の所発見されていない。本種の発生時期及び飛躍時間帯に採集者が山に入ることが少ないことも一つの大きな原因ではないかと思われる。今後の調査で発見される可能性がかなり強い種類である。

ニ). ゲイミョウセセリ

山地の横山、湯ノ内谷の流域で発見されてもいい種類であるが今の所みつからない。今後の調査を期待したい。

ホ). ウラミスジシジミ

クヌギ、コナラの林はあちこちに存在するが、現在までの所本種の記録がない。相生市の例から考えてみても、北部の山麓で発見される可能性の強い種類である。

6). ヒロオビミドリシジミ・ウラジロミドリシジミ・ウスイロオナガシジミ等のナラガシワを食草とするグループについては当地方で発達したナラガシワ林がないことから判断して今後の調査においても発見される可能性は極めて少ない。

7). ギフチョウについては、県下の分布状況、食草の種類の問題等とも考え合わせてみた場合、分布の可能性は極めて少ない。

参 考 文 献

- (1). 中谷貴寿・岩村 巖：西播の蝶分布資料(1), 兵庫生物 Vol. 4. No. 2
- (2). 中谷貴寿・岩村 巖：西播の蝶分布資料(2), 兵庫生物 Vol. 4. No. 3 ~ 4
- (3). 岩村 巖：西播の蝶分布資料(4), 自 刊
- (4). 岩村 巖：西播の蝶分布資料(5), 研究紀要(1967)
- (5). 山本広一・吉阪道雄：兵庫県産蝶類目録(1), 兵庫生物 Vol. 3. No. 4
- (6). 山本広一・吉阪道雄：兵庫県産蝶類目録(2), 兵庫生物 Vol. 3. No. 5
- (7). 山本広一・吉阪道雄：兵庫県産蝶類目録(3), 兵庫生物 Vol. 4. No. 1

- (8). 山本広一・吉阪道雄：兵庫県産蝶類目録(4),
兵庫生物 Vol. 5. No. 1
- (9). 山本広一：兵庫県下のナガサキアゲハについて(1)
兵庫生物 Vol. 5. No. 2
- (10). 白水 隆、原章：原色日本蝶類幼虫図鑑
Vol. 1-2. (保育社)
- (11). 白水 隆：原色昆虫大図鑑, Vol. 1. (北隆館)
- (12). 八木誠政：昆虫学本論, (養賢堂)
- (13). 藤岡知夫：日本産蝶類大図鑑, (講談社)
- (14). 白水隆他：原色日本昆虫生態図鑑, (保育社)
- (15). 兵庫県防災気象連絡会編：気象 20 年報
- (16). 奥山春季：原色日本野外植物図譜,
Vol. 1-7 (誠文堂新宝社)
- (17). 牧野富太郎：新日本植物図鑑, (北隆館)
- (18). オグム：生態学の基礎 (朝倉書店)

(IWAO IWAMURA) 〒671-14 姫路市

蝶に誘われ山野を駆ける

八 木 弘

春遠からず、花咲き乱れ蝶舞う季節も間近である。
蝶採集家たちは、本年こそはと其の日の来るのを待ち
わびていることだろう。

蝶の採集は小さいころからと言う人が多い。私の様
な60の手習いと言うか、会社の定年も間近くなった
58才から始める者は例外かも知れない。

蝶には何の興味も知識もなく、蝶に手もふれたこと
もない私が、只、ひまつぶしと老後の健康のためにと
軽い気持ちで家の近くの山野に捕虫網をかついで出かけた
のが始まりである。

其の様な私を見かけた近所の人たちから「何をお捕
りになるのですか」と聞かれ、「蝶です」と答える私に、
「お孫さんにですか」と問いかえされ戸惑ったもの
だ。蝶の採集は子供が一番ふさわしいものかも知れ
ない。

ともあれ最初に出かけたのは蝶の季節にはまだ早い
3月18日(1972年)。其の日は4月中旬を思わせる春日
和で、陽気に誘われてか、見も知らぬ蝶がちらほらと

とんでいる。しめたとばかり夢中で網を振り回せど網
は空を切り、なかなか容易には網に入ってくれない。
さんざん手こづった挙句、やっと三種類の蝶をものに
した。こんな蝶もいるんだなあ！モンシロチョウかキ
チョウ以外何も知らない私は、貴重なものを手にした
思いで、心わくわく家路を急ぎ早速図鑑を開き、ルリ
タテハ、キタテハ、アカタテハの越冬蝶であることを
知り得たものだ。これが私と蝶との出会であった。

いよいよ4月の蝶の幕あけだ。休日毎に欠かさず網
をかついで出かける日々であった。キチョウ、スジグ
ロシロチョウ、モンシロチョウ、ルリシジミと手当り
しだい片端しから捕えた。日を追うにつれ、ツマキチ
ョウ、コミスジ、アゲハチョウ、クロアゲハ、カラス
アゲハ、アサギマダラ、キアゲハなど私のかつて見も
知らない蝶が次々に出現し、其の美しい翅の輝きにす
っかりみせられ、ただ夢中でシーズン中、山野を駆けめ
ぐる私であった。

シーズンを終り、私の蝶日誌には出勤回数40余日、
採集した蝶50余種が記録されていた。これらの蝶のほ
とんどが、私の周辺の山野に生息しているのに驚きと
感動を覚えた。

それから7年、普通種であれ、珍種であれ、初めて
手に入れた時の感激を忘れえず、県下一円はもとより
近隣県へと足をのばし、遠くは南アルプス、北アルプ
スへと蝶友と連立ち、憧れの蝶の姿を求めて行脚の旅
は続いている。

捕えた蝶も130種は越えただろうか？ 本年も蝶の
季節は間近である。蝶の姿を追ひ求め、深山にふみ入
り、広大にして神秘的な自然の中に蝶の翅の美しい輝
きに限りない喜びを感じる事だろう。すでに65才を
迎える私だが、まだまだ70才まではと張り切っている。

—— 老骨の蝶に誘われ山あるき ——

(HIROSHI YAGI) 〒678 相生市

表紙の説明

兵庫県三田市産ギフチョウ♀

採集年月日 11 IV 1974

採集者 苦木隆幸